

# 盛岡青松支援学校

## 研究テーマ

「多様化する児童生徒の学びを支える指導・支援の在り方を探る」

(単年度研究)

### 1 全体研究

#### (1) 研究テーマ設定の理由

多様化する児童生徒のニーズを把握し、一人一人の学びを支えるために必要なことを明確にした上で指導・支援を行うことで、児童生徒が主体的に学習に取り組むことができるようになるであろうと仮説を立てた。その研究仮説に迫るため、各学部でサブテーマを設定し、1年間の事例研究をまとめること、まとめた事例研究を全職員で学び合い、多様化する児童生徒の学びを支える指導・支援についてのよりよい在り方について考える機会を設定することとした。

#### (2) 各グループについて

##### ①小学部

テーマ：多様化する児童の実態把握とその実践

内容：児童の姿を客観的な方法で捉えるためにアセスメントシート（Co-MaMe・Vineland II 適応行動尺度等）を活用して、児童の課題の共通理解を行った。その後、課題と特性に応じた授業における指導・支援の在り方を検討した。

「Vineland II 適応行動尺度」については、鈴木恵太岩手大学准教授をお招きして、基礎的な概念を学ぶ研修会を実施した。

##### ②中学部

テーマ：生徒一人一人が課題を克服していくための組織的・継続的な取り組み

内容：学年ごとのグループで生徒を1名抽出し、事例研究を行った。生徒の実態と支援の方向性をグループ内で共通理解するためにCo-MaMeを活用した。各学年で計画・実践した内容を学部内で報告し合い、今後の指導・支援の方向性について意見交換を行った。また、学部から生徒1名を抽出し、ケース検討会を実施した。宮城教育大学教職大学院教授 植木田潤氏から、学校で行っている指導・支援に対する具体的なアドバイスや、困難な状況の理解について多く

の助言をいただいたりすることができた。

##### ③高等部

テーマ：生徒が主体的に作業学習に意欲をもって参加するための支援方法

内容：3つの作業班（委託班、手織班、陶芸班）による研究授業を2回ずつ実施した。学部内で授業参観を行い、授業を通じての工夫や困り感を各班で検討した。Co-MaMeのアセスメントシートを活用し、生徒の実態把握を行い、共通理解を図りながら授業改善を行った。

#### (3) グループ研究会

年間10回を基本に、各学部の推進状況により、回数を調整し計画・実施した。

#### (4) 全体研究会（年2回）

①7月：研究推進についての共通理解

②2月：今年度の研究実践についての共通理解  
全校で共有する場をもつことで、他の学部の推進状況や事例研究について共通理解をすることができた。

## 2 講演会

演題：「困り感を抱えた子どもへの指導～発達障害への具体的なサポート～」

講師：山形大学教授 三浦 光哉 氏

期日：令和4年8月8日（月）

参加者：118名（本校職員・特別支援教育ステップアップⅡ受講者含む）

## 3 研修会（リモート、Teams 使用）

(1) Co-MaMe 研修（全病連心身症等教育研究推進委員会オンライン研修会）

(2) 岩手県立療育センター療育研修会（オンライン参加）